

今月は記述式問題の解き方についてお話しします。

記述式問題を解くときに初めに行ってほしいのは、設問の分析です。何が問われているのかを正確に理解していなければ、ピントのぼやけた解答を書いてしまう可能性があります。出題者の出題意図を考え、出題者の求める解答を書く。これが記述式問題で一番大切なことです。記述式問題の典型的な設問パターンには、具体化の記述、相違点の記述、比喩の記述、理由の記述、心情の記述、暗示・象徴の記述、要約型の記述などがあります。それぞれの解法パターンに合わせて、解答を考えていくことになります。

設問の分析ができれば、解答の根拠となる部分をさがし、説明すべき点を整理します。このとき、採点の基準となる要素がいくつあるかを意識して、説明すべき点をまとめておくことが重要です。説明すべき要素が何ポイントあるかを考えないで答案を作成すると、何を伝えたいのかがよくわからない文章になることが多く、注意が必要です。

説明すべきポイントがつかめたら、解答の要素をどの順序で説明すればわかりやすい答案になるか、解答の要素をつなぐ論理は何かを考えて、解答を頭の中で作成します。そして、頭の中で解答がまとまった段階で、一度下書きをします。次に、下書きを見て推敲します。字数制限のある問題では、制限字数に収まっているか、極端に字数が足りないことはないかをチェックしてください。制限字数をかなりオーバーしている場合は、説明しなくてもいいことまで書いてしまっています。また、字数が明らかに不足している場合は、説明すべき要素が漏れています。これらの場合は、もう一度本文を読み直し、答案を作成し直しましょう。推敲する際は、主語と述語が対応した文章になっているか、修飾関係がはっきりわかる文章になっているか、誤字脱字がないかを確認してください。また、出題された文章を読んでいない人が答案を見た時に、具体的な内容が伝わるレベルの答案になっているかという視点で見直すことも重要です。出題された文章を読んでいない人が理解できない答案は、解答としては説明不足になっています。答案の内容に疑問が残る部分に注目して、再度答案を書き直すようにしてください。

ただし実際の入試では、下書きをして推敲する時間が取れないこともありますので、そのときは頭の中で推敲まで終わらせてしまい、一気に解答用紙に答えを書くようにします。

続いて、記述式問題を解く力を身につけるための、間違い直しのやり方を説明します。まず模範解答をよく読み、説明すべき要素がいくつあるかを確認します。そして、なぜその要素が解答には必要なのかを考えてください。次に、解答の要素となる部分が、本文中のどこに書かれているかを探しましょう。傍線部分から解答の要素となる部分を見つけるための論理を考えるようにします。はじめは解答の根拠となる部分を見つけるための論理がよくわからないこともあるかと思いますが、自分なりの理屈でいいので、考えるようにしてください。何度も練習していくうちに、論理的に考える癖が身につけていきますので、次第に根拠となる場所を見つけられるようになっていきます。

さて、書くべき要素がおさえられたら、模範解答を見ずに、自分で解答を書き直してみるようにしましょう。相手に伝わるわかりやすい日本語が書けるようになるためには、この書き直すという作業が重要です。書いた量に比例して、日本語を書く力は上達していきます。

最後に、各回のポイントをあげておきます。

第18回

今回はラ・サール中の入試問題研究を行います。60分で問題を解き、解説動画を見るようにしてください。はじめに問題全体を見て、どの問題から解き始めるか、戦略をたてましょう。ラ・サール中の入試は、記述量が多いため、時間配分に注意が必要です。また、設問の意図をよく考えないと、どう表現すればいいのかが分からない問題も出題されます。出題の意図を考えて、問題を解くようにしましょう。

第19回

今回は説明・論説文の総合問題を学習します。説明・論説文では、具体化の記述、理由の記述が設問の中心になります。それぞれの解法を思い出して、演習するようにしてください。

第20回

今回は物語文の総合問題を学習します。物語文では、心情説明の記述、心情がらみの理由説明の記述が設問の中心になります。それぞれの解法を思い出して、演習するようにしてください。

6 灘 WEB においては春休みを除いて、7 月までで中学受験に必要な単元の発展的なものも含めた基本をほぼすべて扱います。

テキストは、算数強化ツール(の中の「応用」部分の前半)と、灘特訓テキストを使用し、それぞれ独立した動画があり、いずれも特に重要な問題を中心に一部の問題を扱っています。

学習法は共通しており、先に動画を一通り見て理解した上で、もう一度問題を解き直す…ということを繰り返していく方法と、動画で扱っている問題を確認して(動画においては、必ず問題を読み上げますので、その段階まで見て一旦動画を止めるといったのもいいと思います)、一旦自力で問題に挑戦し、その後、動画を見た上で、ご自分がほぼ理解できていたと思われたら次の問題に進み、何らかの間違いがあったり、正解したものの、新しい解法や知識などが展開されたりした場合は、解き直しをする(新しい解法で解いてみる)というステップを入れた上で、次の問題に進むという方法があります。

この、解き直す…という段階を経ることにより、実力が飛躍的に向上していきます。

理想としては、間違ったり、新しい発見があったりした問題については、少し間を置いて(例えば、1 週間、1 ヶ月など)再度解き直しをするとより完璧になります。

あと、動画がない問題についても、余裕に合わせて取り組んでみてください。この場合は、付属の解答解説を参考に、間違ったところについては解き直しをすることをお奨めします。

算数強化ツール

算数強化ツールに関しては、動画は「応用」の前半の部分を扱いますが、少し引っかかることが多いと感じた場合は、「基礎」や「共通」の部分も使って、練習を積むことをお奨めします。

◆第 19 回 (テキスト表記は 37 回…括弧内は以下同) 立体図形全般に関する問題

立体図形に関する色々な問題を扱います。1, 3, 5, 6, 7, 8, 12はオーソドックスな問題ですので、間違いなく正解できるようにしておいてください。13, 14は少し踏み込んだ問題です。15も重要、17は意外と苦手な人が多いものになります。18の表面積は 3 つの面の面積の和で求められます。21, 22, 26, 27, 30も取り組む価値があります。

学習対象問題は 1~19です。20~30は余裕があったら取り組んでください。

◆第 20 回 (38 回) 水に関する問題

2, 5, 7, 8は基本的です。10, 11, 12は少し応用になります。22は発想の鋭さが勝負、23のシミュレーションは面倒ですが、一度取り組んでおくとよいと思います。

学習対象問題は 1~12です。13~23は余裕があったら取り組んでください。

灘特進テキスト

灘特進テキストについても、動画で扱っていない問題も積極的に取り組んでみてください。

◆第18回 速さⅣ

流水算、通過算、シャドウを作るタイプの問題などです。①～⑧が流水算ですが、①, ③, ④が少し応用問題になり、残りは比較的基本的です。⑨は伝書バトの問題で、⑦番と⑧番が30分ずれて戻ってきたところがポイントです。⑩, ⑪は汽笛の問題。音の先頭と最後尾に注目をします。⑫は本質では通過算ではなく逆比を使って解くと平易です。⑬～⑯の通過算は、状況図を書く必要がある問題が多くなっています。図を書いた上で、先頭か最後尾に注目をします。⑰～⑲はシャドウの考え方を使います。⑲(4)はシャドウを使わないと解くのが難しいかもしれません。

◆第19回 立体図形Ⅲ

立体図形の求積に関する問題です。③, ⑤, ⑧, ⑨, ⑩, ⑫, ⑭, ⑯, ⑰あたりが重要です。

◆第20回 灘中トライアル

灘中入試2日目タイプの問題になります。60分の時間を計って取り組み解説を動画で見てください。灘トライアルの問題の為、教材はプリントにて配信日直前にお届けいたします。

灘特進テキストについても、動画で扱っていない問題も積極的に取り組んでみてください。

予告ですが、最終回の動画は灘中予想問題になります。ご受講の方には直前での教材の発送となります。